令和5年度 蕪城小学校 後期学校評価結果·分析·改善策

		上段:児童 甲段:保護者	A+B	Α	В	С	D	分析	今後の分掌方策
1 /	授業	授業はわかりやすい。	96. 3	70. 6	25. 7	2. 7	1	○前期同様、全ての項目において、A+B評価が95%を超えているため、良好だと言える。さらに、前期同様、児童のA評価も70%を超えたり、保護者のA評価も50%を超えたりと、教職員の日ごろの教材研究及び教材の工夫が児童のわかる、できるにつながったと考える。	 ・3学期以降もねらいを明確にした見方・考え方を働かせる授業づくり及び授業改善をチーム学年で関っていく。さらに・通1回の学年研において、「後半充実型授業デザイン」のチェックを月2回(国際を中心) 実施し、達成率90%以上を目
		お子さんは、授業はわかりやすいと思っている。	95. 2	52. 8	42. 4	4	0.8	▲児童アンケートのCD評価が3.7%となり、前期と比較しても+1.8%上昇した。児童の学力の差が生じたのではないかと考える。個別支援が一層必要であり、そのために児童主体の授業となるように授業改善を関っていく必要がある。	
		ねらい(育みたい資質・能力)を明確にした授業を行っている。	100	60	40	0	(
2	家庭 学習	学校でも、お家でも進んで学習に取り組んでいる。	95. 8	65. 6	30. 2	3. 3	0. 9	3 前期で-1.2%ではあるが、児童の家庭学習の習慣化、さらには保護者の家庭学習への声かけの意欲の向上が図られたのだと考える。 4 保護者アンケートのCD評価が6.6%と前期と比較して+1.6%上昇したことから、児童の個人差が家庭の学習習慣の差になっていると考	と デルを視覚的に示していく。 ・家庭学習強化週間において、1学期は96.3%、2学期は95.1%の達成率であったため、さらなる向上を目指したい。その
		ご家庭で、進んで学習に取り組むように声をかけている。	93. 4	44. 4	49	5. 3	1. 3		
		学習に主体的に取り組み、家庭学習で学んだことを生かすよう に指導している。	97. 1	64. 7	32. 4	2. 9	C		
3	聞く	相手の話をしっかり聞いて、こたえている。	95. 4	59. 3	36. 1	3. 1	1. 4	■ ○ ○ 前期同様、全ての項目において、A+B評価で95%を超えているため、良好だと言える。特に、教職員の授業での相手意識を高める指導や 伝え合いの場の設定がなされていると感じた。	に示していく。月目標の達成率を95%以上をめざし、学年・学級間差を失くし、来年度の学習規律の継承にしたい。
		相手の話をしっかり聞くように、声をかけている。	97. 4	59	38. 4	2. 6		品が別と比較して、A評価において児童アンケートで-8.7%、保護者アンケートで-2%と微減となった。さらに、児童アンケートのCD評価でも+1.5%と上昇した。指導が徹底されている一方で、児童自身ができていると感じていないことが挙げられる。そのため、教職員ができてい	
4	* <	相手の話をしっかりと聞いて、こたえるように指導している。 1年生 :自分の考えを伝えている。	100	72. 2	27. 8	0		○前期同様、児童アンケート及び教職員アンケートで95%を超えているため、良好だと言える。さらに保護者アンケートも前期から引き続き	・今後も月1回のぶじょっこ集会において、客くことや新すことに理由や標準を付ける真さや効果について教師と見音で共
	話す	2年生以上:自分の考えを伝えるときに、根拠や理由を書いたり お子さんは授業で、自分の考えを伝えるときに根拠や理由を	94. 6	60. 5	34. 1	4. 9	0. 6	80%を超えている。児童が、授業中に確実に理由や根拠を書いたり、伝えたりしている姿が増えていると鳴じる。今後も、本校がめざす協働 的な姿になるように、さらに理由や根拠を明確に伝える、書ける場面を工夫していきたい。	
		表現するように努めている。 年生 :自分の考えを伝えるように指導している。	82. 6	30. 9	51. 7	15. 1	2. 3		したりすることで学びを自覚させる。 ・三学期以降も家庭学習強化週間等の期間を中心に、保護者に児童のノートの理由や根拠が書かれているノートを見て
		2年生以上:自分で考えを伝えるときに、根拠や理由を書いたり 話したりするように指導している。	100	77. 1	22. 9	0	C	蔵で連携を図る必要がある。	頂けるように呼びかけていく。
	生活	いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしている。	95. 4	80. 6	14. 8	2. 6	2	○前期比で児童AB評価が一1.6%であったが、全体としては95%を超えており、A評価も80%を超えているため、児童は安心して過ごすこ 「いじめに関する年間指導計画」に基づいた道徳料・学級活動の時間を中心とした授業実践だけ ② とができていると捉えている。いじめに関する年間指導計画に基づいたいじめに関する投業実践や学級指導、友だちアンケートによる学年の を通して、いじめを自分率しして変えられる指導を今後も継続して行う。 - 実態把握や実際に応じた指導、児童面談による確実な内面把握等、これまでに取り組んできたことについては一定の効果があったと捉えて 「・支援的な児童面談や日頃の児童との対話を通して、「困った時には近くの大人に相談する」という。 「先生はいつても数を関く」という姿勢が児童に伝わるようにしていく。また、冬月実施の「友だちアン	を通して、いじめを自分事として捉えられる指導を今後も継続して行う。
		お子さんは、いじめられたり無視されたりすることなく安心して 過ごしている。	96. 7	74. 1	22. 6	2. 5	0.8	と言える。	室の機子を丁寧に見取り、必要に応じて児童の馬いに等り添った丁寧な間を取りを行う。また、児童間でのトラブルが発生 した際には、管理職や主幹、生徒指導主事、学年主任への報告をより徹底し、組織的な対応を維続して行っていく。 ・学習研修者に連携し、相手の話を聞く指導をより徹底していく。
		子どもたちが、いじめられたり無視されたりすることなく安心して 過ごせるよう指導している。	100	63. 2	36. 8	0	C	▲児童CD評価+1.6%であり、D評価も+1分に不安を指えながら過ごしている割合が増えた、保護者CD評価は一の.7%と微減ではあったが、のてはないため不安を追じている方が一定数いるこれまで同様に、日々の重症を発情の変化や行動の変化、人間関係の変化等に目を配り、報告・連絡・相談を徹底する中で、組織的な対応を継続することが必要である。	・年度末、来年度へ向けて、いじめ防止基本方針や保護者向けに作成している概要版の見直しを図る。
	集団 生活	学校は楽しい。	95	79. 3	15. 7	2. 7	2. 3		継続して行っていく。また、日々の学校生活の中で、児童が達成感を得られるように、学年全体や個人での具体的な目標
		お子さんは、学校は楽しいと思っている。	95. 8	68. 1	27. 7	3. 7	0. 5	ーウンター、「ありがとうカード」や「キラキラカード」を活用した児童相互での認め合い活動の充実によって、児童は授業や行事を通して連成 場を得られていると考える。	力をしていく過程を認めながら、児童の更なる意欲の向上につなげる指導を行っていく。
		子どもたちは、学校で楽しくすごしている。	100	71. 1	28. 9	0	C	▲ 本前期比で児童CD評価+2%であった。C評価は-0.3%であったが、D評価が+2.3%と増える結果であった。いじめ問題の項目同様、「学校は楽しくない」と感じている児童・保護者が一定数いることを考えると、日々の児童の見取りはもちろん、これまで以上に児童の気持ちに寄り添った丁寧な対応を継続しながら、学習や行事等で連成席を得られる取組を提案していく必要がある。また、楽しくないと感じている児童へ機能的に関わる必要がある。	・児童アンケートの結果から、CD評価が見られる児童や「兼しくない」と答える児童に対して、国リ郷に寄り添い、日々の声 かけや面談による励まし、努力の通極等を認めることを行うことで児童の安心郷につなげられるようにする。 る
7	挨拶	いつでもどこでも自分から、気持ちのよいあいさつをすることができる。	93. 7	59. 2	34. 5	5. 3	1	○前期比で、教員A評価+5.2%と児童のあいさつを認めたり価値づけたりする教員の意識に高まりが見られた。 ▲前期比で、児童AB評価=2.3%であり、A評価は-9.8%であった。保護者A評価も-8.5%であった。児童、保護者ともに昨年度比でも前	- I-I f からの生活目標に設定している「地域でも自分からあいさつしよう」を目標に掲げ、学年や学級であいさつの様子に ついてふり返りを行うことで、児童の意識をより高められるようにしていく。また、地域の児童の様子を実際に確認したり、J
		お子さんは、学校や地域、家庭で自分からあいさつをしている。	83. 4	32. 6	50. 8	15. 1	1. 5	- 翔比でもマイナスであったことから、より一層あいさつに対する取載を強化する必要があると考える。教員のA評価がプラスであったことから、今後も見重に対してあいさつへの価値づけや意欲をもたせる継続した指導が必要である。	守り隊の方の声を確認したりして、その内容を校内放送等で周知し、あいさつへの価値づけを行っていく。更に、職員宣前 に掲示してある校区地図と見守り隊の方の写真について校内放送やぶじょっこ集会で再周知をし、感謝の気持ちをもつと
		幸先垂範であいさつをし、よいあいさつを認めたり価値づけを 行ったりしている。	100	84. 2	15. 8	0			同時に自分からあいさつしようという常識を高められるように指導を行う。 ・地域でのあいさつを含めて、HPやお使りにあいさつについての啓発や協力を保護者や地域の方、見守り隊の方にお願い すること等を記載する。 ・生活委員会を中心とした「あいさつ運動」を継続し、玄関前・校内でのあいさつの意識をより高められるようにする。
		自分や友だちのよい所を認め、思いやりのある温かい言葉を 伝えている。	95. 7	63. 6	32. 1	3	1.3	○ 「	・ この主なさせていたことが、シェルコとないが、ショル間では、コンド・フルスをよったがあった。 ・ 12月に取り組んだ。敬意で友だらにあいでつ」を超越し、児童同士でのあいでつかが当たり前になるようにしていく。 ・ これまでにも確認して取り組んできている「キラキラカード」や「ありかさカポスト」「ありがとうの木」の取組を継続してい 、また、潮泉的グルーブエンカウンターやツーンサルスキルトレーングにおいても定期的に実施することで、児童相互の
4	感	お子さんの努力していることや頑張りを、ほめたり認めたりしている。	99. 4	69. 3	30. 1	0. 5	0. 1	「AB評価も前期比で+0.4%であり、児童に対して大人がかける認める言葉や頑張りを認める意識の高まりが、児童の自己有用場を支えて 「いると言える。 ▲教養JAB評価が−2.6%であった。保護者の意識の高まりがあることを考えると、児童と関わる時間が多い教員の指導は100%でなけれ	協め会い活動や思いの伝わる気持ちのよい部し方や関き方を身につけさせていく。 ・児童に対する直接的・関接的に認める声かけを行うことに対する教職員の意識をより高められるように、生徒指導だより等で再端隊を行っていく。
		児童の頑張りを、直接的・間接的に認める声かけを行っている。	97. 4	76. 3	21. 1	2. 6	0	ばならない。教員に対して、どのような声かけを行っていくことが必要かを再局知する必要がある。 	・特活・体育部と連携して、たて割り活動を活かす。たて割り活動の際には、それぞれの学年に応じた役割等を丁寧に学年、年度損害を行ってから活動に参加させ、活動をした際(たてわり遊び・たてわり排除等)には丁寧なふり返りを行うことで、有用患を育めるように指導する。 ・道機等の投棄や学級経管の推進により、思いやり等望ましい関わり方を更に指導していく。
		自分の健康を考え、生活リズムを整えて、好き嫌いなく感謝して	95. 7	70	25. 7	3. 1	1. 1	▲保護者の評価に関しては、改善してきているものの、まだまだ改善の余地があると言える。引き続き、食に関する指導について丁寧に発信 し続ける必要がある。	
	食育	給食を食べている。 お子さんは、生活習慣を整え、好き嫌いなく感謝して食事をして	82. 2	34. 9	47. 3	14.6			
		いる。 望ましい生活習慣、及び感謝してできるだけ残さず給食を食べ	100	82. 9	17. 1	14.0	3. 2		
		るように指導している。 話し合ったり協力したりして、みんなのために動いている。	96. 1	68	28. 1	3.3	•	○日本 日本本 共鳴日は ADMのはGEOU L. した、マかは 本内がにして 3 cm、7 向人はたかいす。 共物では続ける 日本ADMのは	
	関係 作り	お子さんは、友連と協力して学校生活を送っている。	97. 3	61.6	26. I 35. 7	2.7		○の元章 **疾職** 本編集ともハら計画は9つか以上になってらか、東と知じころえている書き立すか"なり命い。前側には吹している場合に対している。 0.7%、保養も内容価が1-0.3%、表職員も利容価が1-0%となっている。手数が最めた変や委員会活動。たちり活動に収り組立姿か ら、路動的に学校を完を送る建設が高いことがうかがえる。保護者についても、お使りやHPなどの情報や見霊の様子から、協力して学 り校生活を送っている様子が任わっていることが考えられる。	 ・引き継ぎ、学級活動の取組はよりよい学校にするためであることを、Stとっこ集会で発信していく。また、代表委員会提りカードで学級の環状をとらえられるようにし、各クラスの取組や委員会活動にフィードパックしていけるようにする。 ・生活日標「感謝の気持ちを伝えよう」では、6年生を送る金やたてわり感謝の会について、ひあてを持って活動すること
		ぶじょっこミーティングや行事を通して、子供たちが成長を実場 できるように指導している。	100	73. 5	26. 5	0		─ ▲児童CD評価については、児童CD評価が-0.9%となっており、増加している。児童CD評価それぞれでは、児童C評価が+1.3%と増 ↑ 加しているのに対し、D評価-0.4%と減少しているため、D評価まではいかないまでもB評価C評価の間にいる児童がいるようだ。B評価	て、協力しようとする意識を更に高める。 ・児童 I 人ひとりの見取りから、その子なりの関わり方を認めつつ、個別または全体への価値づけを継続する。
	体力 向上	自分のめあてをもって、あきらめず運動している。	96. 9	81. 6	15. 3	1.9	1. 3	 児童へのアプローチに力を入れることで、肯定的に自分の行動をふり返られるようにする必要がある。 ○児童・保護者・教職員ともAB評価が90%を触えており、肯定的にとらえている割合が高い。前期と比較して、児童AB評価が−1.9%、保護 	 ・1月からの機能が旬間では、昨年度の記憶をもとになわとびカードを使ってめあてを設定したり、運動委員会による技の 1.9%、保護・紹介動画を見て新しい特に検閲したり、現金が電波的に取り組めるようにする、設定しためあてへの中間評価をとるように
		お子さんは、体を動かすことを楽しいと思っている。	91.6	68. 3	23. 3	7	1.4	□ 者AB評価が-2.4%、収획具AB評価が±0%となっている。10月の運動会・11月持久走記録会に向けて、めあてを設定しながら継続的に ■ 取り組んできたことが評価につながっていると考えられる。	し、目分の現状をふりかえり次に生かせるようにする。 ・たてわりグループをいかした大縄跳び交流会を設定することで、みんなで体を動かす楽しさを感じられるようにする。
		校 プランに基づき、子供たちが体力向上できるように指導 している。	100	72. 7	27. 3	0	C	▲児童・保護者とも数値の上では環境であるが、全体として評価を下げる方向に推移している様子が見られる。「できた」「できない」の結果だけでなく、その取組の過程を大切にできるように、情報発信や価値づけをしていく必要がある。	 3学期も「体育だより」の発行を継続して、児童が楽しめる運動などを紹介していく。また、運動の楽しさを感じさせるために、ストラックアウトなど委員会発信の企画を推進する。 1校1プランについて今年度の成果と問題を教職員で共有し、未年度にむけて見遠しをもつ。
12	働き方							〇前類比で、A評価は11.5%増となり、肯定的評価100%を達成した。また、昨年度同時期の教職員の月平均の時間外勤務時間を比較し一たところ、9月から11月にかけて、月平均にして5時間12分の削減につながった。2学期から始めた業務改善プロジェクトは教職員の時間に	・3学期は,来年度に向けて準備を進めていきたい。具体的には,日課の変更や会議時間の短縮,会議そのものの削減に
	~	子供によりよい教育を行うための、業務改善に意識して取り組 んでいる。	100	60. 5	39. 5	0	C	でとこう。オカットロース・ファイルで、ファットのは、ファットのでは、アン・ファットのでは、アン・ファイルの観見の時間に対する意識の変容にもつながり、非常に効果的だったと言える。 ▲多くの業務改善アイデアを十分に生かせておらず、限られた時間の中で、数職員が工夫して業務改善を行った結果である。今後、出され たアイデアをもとに、学校として改革を進めていく必要がある。	まって、教育可先の時間で子板を改革が加入来源に入れられる時間を確保することとは指す。そのためにも、使未の果然を分掌ごとに見直し、大胆な削減を行う必要があり、3学期は平息に行っていきたい。